

平成27年度 第1回 水戸市観光審議会

日時 平成28年2月24日(水) 午後3時

場所 茨城県三の丸庁舎 3階 会議室B

次 第

開 会

1 あいさつ

2 議事

(1) 「水戸市観光基本計画(第3次)」の策定について(報告)

(2) 目標達成に向けて

(3) その他

閉 会

1 水戸市観光基本計画（第3次）の策定について

（1）計画策定の基本的事項

①計画策定の趣旨

本計画は、社会経済情勢の変動や福島第一原子力発電所事故等の風評による本市の観光の置かれる状況の変化、日帰りの観光客が多い現状等、本市を取り巻く課題や特徴等に対応し、宿泊滞在型・通年型観光の実現、外国人観光客の誘致や受入体制の充実等による観光交流人口の増加に向けた施策を戦略的かつ総合的に推進するため、策定するもの。

②計画期間

2015（平成27）年度から2023（平成35）年度までの9年間

（2）計画の基本的方向

①目指す将来イメージ

水戸徳川家ゆかりの歴史や、水戸芸術館等から発信される芸術文化、偕楽園公園をはじめとする多くの自然など、本市が有する個性豊かな魅力をさらに磨き上げ、活用するとともに、市民一人ひとりが、ふるさと水戸に対する愛情を深め、おもてなしの心で観光客をお迎えすることで、

「おもてなしと歴史・文化・自然によって
新たな感動に出会えるまち 水戸」 を目指す

②基本戦略

基本戦略1 訪れてみたいと思える観光まちづくり（観光資源の魅力向上）

弘道館、偕楽園公園、水戸芸術館など、水戸の歴史・文化・自然を体験できる観光資源の魅力向上により、多くの人が訪れたいと思える観光まちづくりを推進する。

基本戦略2 巡りたいと思える観光まちづくり（観光連携力の強化）

豊富な観光資源を組み合わせる回遊性の向上を図るとともに、広域観光の推進や戦略的なイベント展開により、通年型観光をめざし、水戸周辺に訪れた観光客が複数の場所を巡ってみたいと思える観光まちづくりを推進する。

基本戦略3 伝えたいと思える観光まちづくり（情報発信力の強化）

市民が誇りを持って地域内外に伝えたいと思えるようなまちを目指します。また、官民による効果的な情報発信により、市民や訪れた人が水戸の魅力を伝えたいと思える観光まちづくりを推進する。

③目標値

観光交流人口を2023（平成35）年度に年間450万人にすることを旨とする。また、先導プロジェクトにおいて、個別の目標値を設定。

《先導プロジェクト目標値〔2023（平成35）年度〕》

歴史観光まちづくり推進プロジェクト

- ・弘道館の年間入込観光客数を150万人にすることを旨とする。

スポーツ・文化観光まちづくり推進プロジェクト

- ・年間のコンベンション誘致数を誘致事業20件、自主事業5件
- ・宿泊旅行統計調査による水戸市内年間宿泊客数を68万人にすることを旨とする。

自然観光まちづくり推進プロジェクト

- ・ 偕楽園（本園）の年間入込観光客数を 120 万人にすることを旨す。

インバウンド観光（国際観光）推進プロジェクト

- ・ 外国人の年間入込観光客数を 10 万人にすることを旨す。

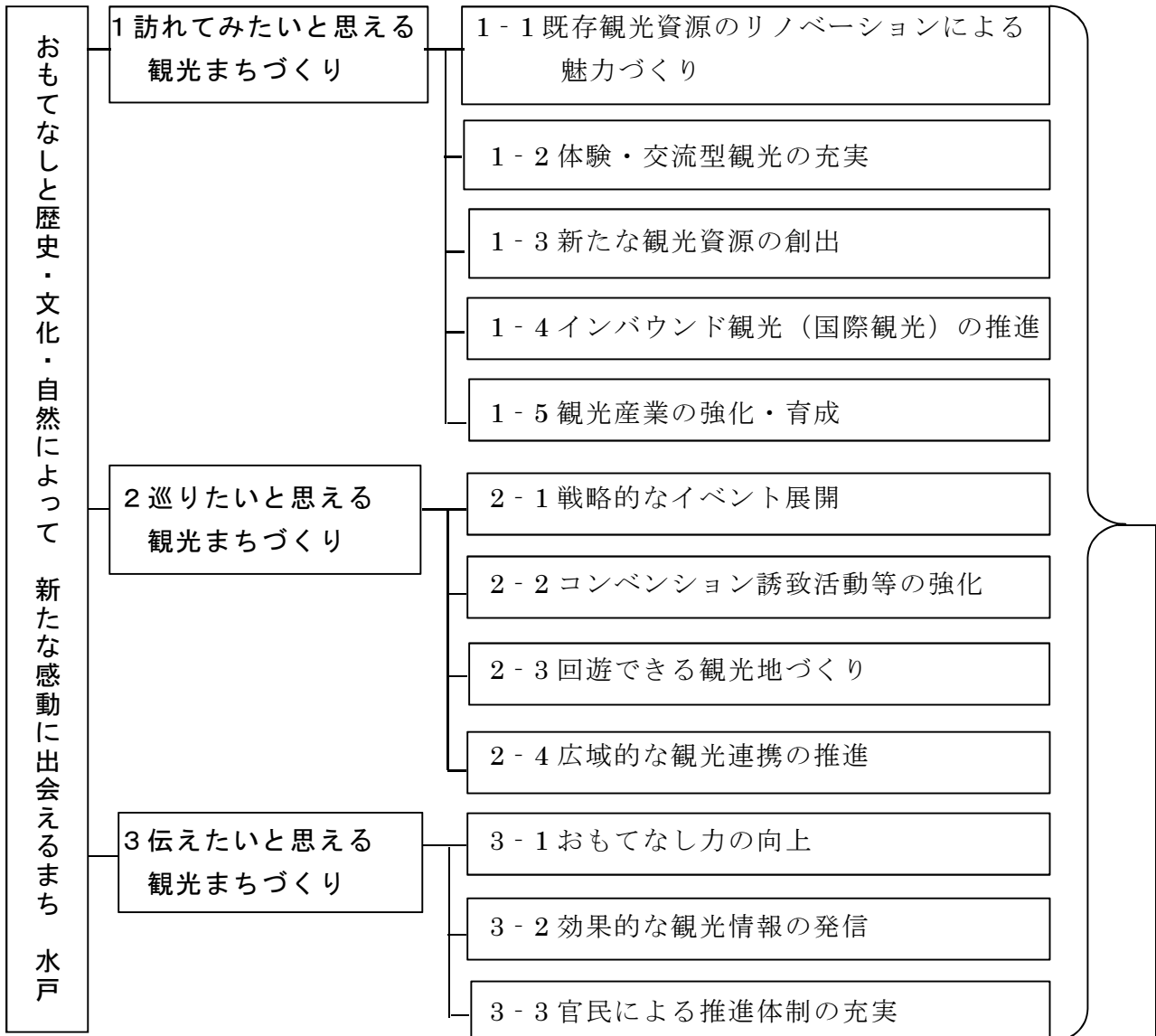
市民おもてなし運動推進プロジェクト

- ・ 優良タクシー乗務員認定人数を 100 人にすることを旨す。
- ・ おもてなしマイスター認定人数を 200 人にすることを旨す。
- ・ 新たな土産品を累計 20 品開発することを旨す。

（3）施策の体系

（将来イメージ）（基本戦略）

（基本施策）



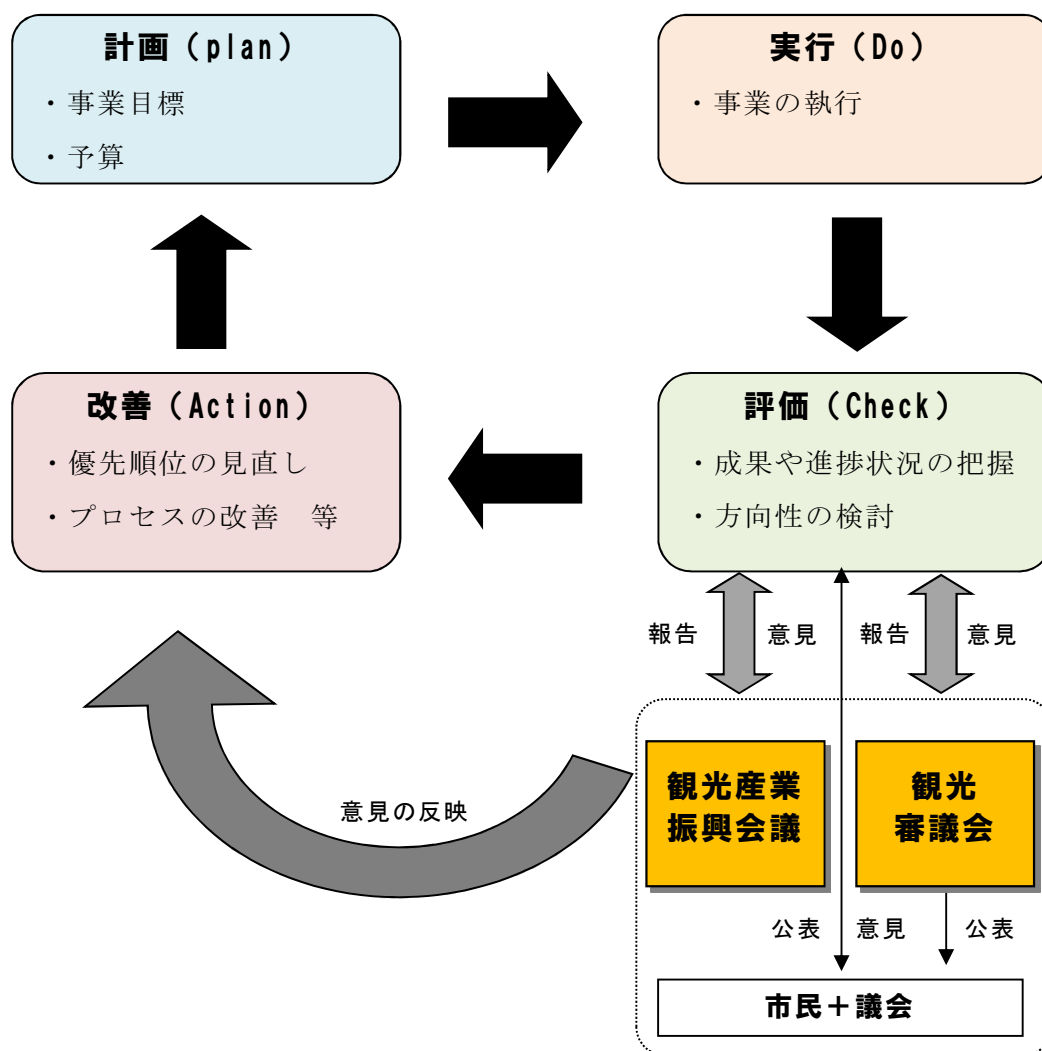
先導プロジェクト

- 歴史観光まちづくり推進プロジェクト
- スポーツ・文化観光まちづくり推進プロジェクト
- 自然観光まちづくり推進プロジェクト
- インバウンド観光（国際観光）推進プロジェクト
- 市民おもてなし運動推進プロジェクト

2 目標達成に向けて

(1) 進行管理について

関係機関と連携しながら、目標達成に向け、引き続き先導プロジェクトを中心に事業を展開する。また、事務局において進行管理することに加え、毎年本審議会を開催し、進行管理・取組について要点を定め審議する。



(2) 現況

平成 27 年 3 月に策定された本計画の目標である「観光交流人口年間 450 万人（平成 35 年度）」達成に向け、先導プロジェクトを中心に、庁内各課・関係機関と連携し取り組んでいる。

指標	現況	目標値（平成 35 年度）
年間観光交流人口	3,426,000 人（平成 26 年度）	4,500,000 人

先導プロジェクト

- ① 歴史観光まちづくり推進プロジェクト
- ② スポーツ・文化観光まちづくり推進プロジェクト
- ③ 自然観光まちづくり推進プロジェクト
- ④ インバウンド観光（国際観光）推進プロジェクト
- ⑤ 市民おもてなし運動推進プロジェクト

先導プロジェクト	指標	現況	目標値（平成 35 年度）
①	弘道館 年間入込観光客数	61,354 人（平成 26 年度）	150,000 人
②	市内年間宿泊客数	485,275 人（平成 26 年度）	600,000 人
	コンベンション誘致数	1 件（誘致） 6 件（自主事業）（平成 26 年度）	20 件（誘致） 5 件（自主事業）
③	偕楽園（本園） 年間入込観光客数	977,017 人（平成 26 年度）	1,200,000 人
④	外国人の年間入込観光客数	— ※187,000 人（平成 26 年茨城県）	100,000 人
⑤	新たな土産品の開発品数	6 品（平成 27 年度見込）	20 品
	優良タクシー乗務員認定人数	34 人（平成 27 年 12 月現在）	100 人
	おもてなしマイスター認定人数	64 人（平成 28 年 2 月現在）	200 人

(3) インバウンド観光（国際観光）推進について

ア 現状

2015年の訪日外国人の数が1973万人を記録する中で、茨城県への外国人観光客数の伸び率は低い水準を示している。こうした中、茨城空港においては、中国（上海、深セン、杭州）便に加え3月からは台北便が就航し、本県へのアクセス性がさらに確立されることから、この好機を最大限に活用して、本市へ積極的に外国人観光客を呼び込む必要がある。

本市のインバウンド観光施策については、地方創生先行型交付金を活用し、海外向けの情報発信や受け入れ体制の整備を進めるなど重点的に取り組んでおり、今後も、新たな交付金等を積極的に活用しながら、戦略的に施策を推進する。

イ 平成27年度の実績（◎は地方創生先行型交付金の活用による実施）

【情報発信】

- ◎訪日外国人向け観光PR映像の制作
- ◎台中国際旅行博への参加
- ◎茨城空港での外国人向けキャンペーンの実施（3月実施）
 - ・AETの黄門まつりの神輿体験（動画の制作と参加者の情報発信）

【受入体制の整備】

- ◎市内外国語版案内板の更新（作成中）
- ◎国際観光推進モニターツアーの実施
- ◎観光案内所でのタブレットによる翻訳と検索サービスの提供（調整中）
- ◎おもてなしシートの作成（作成中）
 - ・外国語版観光パンフレットの増刷
 - ・外国人観光案内所カテゴリー2の認定
 - ・免税店の拡充に向けた案内

ウ 平成28年度の方針

外国人観光客の市場調査や動態調査を行うことで、的確なターゲット設定やコンセプトの規定を進めるとともに、制作した動画を活用した情報発信や、体験メニューの充実や外国人観光案内所の機能強化等の受入体制の整備を進める。

（地方創生加速化交付金の活用を検討している。）

3 その他